

体育会クラブ活動におけるリスク対応について

学生アスリートの違法薬物問題が報道されている。他の大学の体育会で起きた問題とはいえ、39ものクラブを有する中京大学体育会としても、“他人事”と捉えることはできないし捉えるべきではないと考える。

薬物のリスクは学生アスリートに限ったことではないが、体育会の中には寮で共同生活をするクラブがあり、親の目が届かないうえ、プライバシーにも配慮しなければならないため、リスクをいち早くキャッチすることは難しい。

だからといって対策をとらないという選択があってはならない。文部科学省も「薬物の危険は意外なほど身近に迫っている」と危険視しており、薬物のリスクは間違いなく学生の身の周りにある。「勉強がはかどる」「痩せられる」「現実逃避できる」「海外で合法とされているものは使用しても問題ない」といった誤った理解や、「周囲にすすめられて断れなかった」「海外遠征のときに薬物使用を間近に見た」という理由で使用する等、最初は軽い気持ちで手を染める。私たちは、リスクから学生を遠ざけ、この軽い気持ちを止めなければならない。

さらに、体育会クラブ活動には、薬物以外にもさまざまなリスクがある。今まさしく真っ先に思い浮かぶのは猛暑による熱中症のリスクである。健康な学生アスリートであっても、重症化や死に至るおそれがあるため、適切な対策を講ずる必要がある。

その他にも、ドーピングによるリスク、過密な競技日程・練習スケジュールによるリスク、指導者の指導能力・技術に起因するリスク等もある。また、新型コロナウイルス感染症拡大のような健康被害がクラブの寮内で発生したことも記憶に新しい。

本学の建学の精神は「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」である。スポーツマンシップを謳い、スポーツを教育理念に掲げている。よって、すべての学生アスリートが安心・安全にスポーツに取り組むことができるように、体育会全体をあげて、リスク管理を徹底する。特に大学は教育機関であることから、学生アスリートへの“教育”を通じてリスクを回避することに重点を置き、今後さまざまな取組みを実施していく。

一方で、完全・完璧にリスクを回避することは難しいという現実から目を背けてはならない。よって、事故・事件等のリスクが生じたときは、すみやかに専門家をまじえて最善の対応を検討するとともに、学生、保護者、教職員、その他大学関係はもちろんのこと、広く社会に対して公表する姿勢を持つ所存である。

中京大学体育会